

1 本研究の背景

(1) 都における授業改善の方向性

東京都教育ビジョン第5次(令和6年3月)では、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」の中で、「デジタルを活用したこれからの学び」を推進することが示されている。

教育ビジョンの策定に当たり、「こども基本法」(こども家庭庁 令和4年6月)や「東京都こども基本条例」(令和3年4月1日)の趣旨に鑑み、都内公立学校に通う児童・生徒約1万人から様々な声を聴き取っている。そこからは、ICT機器を活用しながら一人一人に最適な学びと協働的な学びのベストミックスを図る必要性や、子供一人一人が何のために学ぶかを実感できるようにする重要性が明らかになった。また、一人一人の違いを個性として受け止め、それぞれが自ら伸びようとする意欲を引き出す学びを実現する必要性も明らかになった。

こうした児童・生徒の声を踏まえ、変化が激しい予測困難な時代において、よい変化を起こそうと自ら課題を設定し、振り返り、責任をもって行動する力を育成するために、これから求められる授業デザインを確立する必要がある。

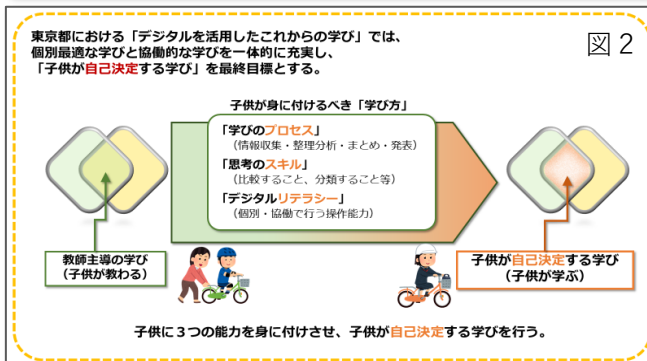
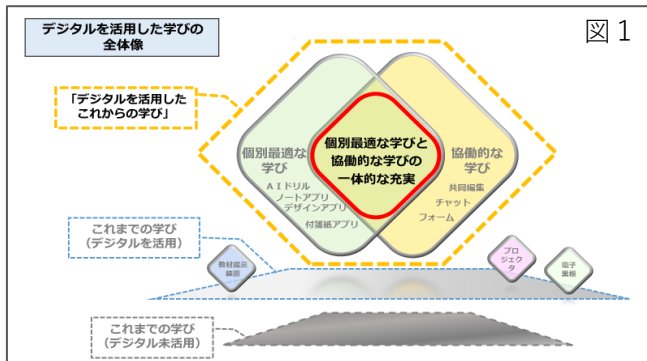
(2) 本委員会の構成及び指導資料の位置付け

教育ビジョン等で示された方向性を踏まえ、令和6年度は、都内公立学校10校の研究校を指定した。本委員会は、各研究校から招集された委員により構成されている。

研究校の取組を通じて改めて見えてきたことは、これまでの教師主導の指導に加え、「児童・生徒に学びを委ねる指導」が重要だということである。しかし、多くの教師は具体的な授業イメージをもつことが困難であり、何から改善を始めればよいか分からない状況がある。

そこで、本指導資料では、授業改善への第一歩となる具体的な手法を整理した。

2 「デジタルを活用したこれからの学び」とは



まず、デジタル活用の面から子供たちの学びについて確認した。(図1)

多様で大量の情報の取扱いが可能になることや、時間的・空間的制約を超えて情報の蓄積、可視化、情報共有等が可能になることなど、デジタル活用の良さを子供たち自身が実感しつつ、自分なりの学び方を身に付けていくことは、これからの社会を生き抜く上で必須である。

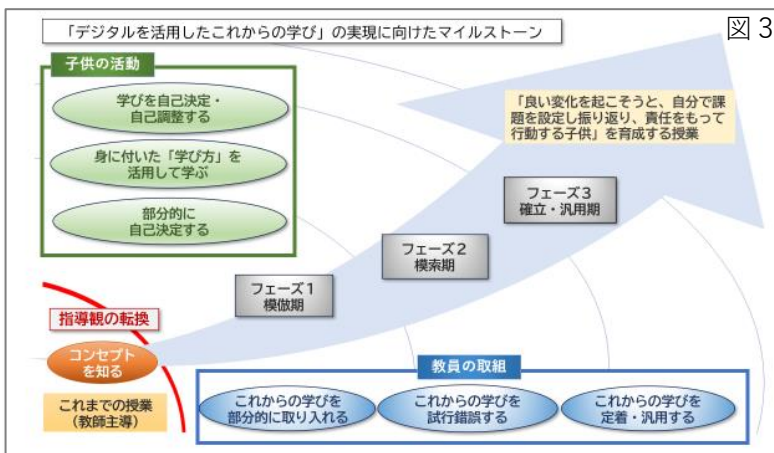
都では、デジタル活用を大前提とし、個別最適な学びと協働的な学び、そしてそれらを一体的に充実した学びを「デジタルを活用したこれからの学び」の範囲としている。

また、最終的に目指す目標を、児童・生徒が自己決定する学びを最終目標としている。(図2)

児童・生徒が、デジタルを使いこなし、自らの課題意識の下、学習計画を立て、自分なりの学習方法で学ぶ。こうした学習を各教科等の授業で実現することで、児童・生徒は予測困難な時代を生き抜く資質・能力を身に付けることができる考える。

そのため教師は、児童・生徒を自立した学習者として育成する支援者・伴走者として役割を変えることが求められている。

3 「デジタルを活用したこれからの学び」の実現に向けたマイルストーン



子供が学習課題や学習方法等を自己決定する学びを実現するためのマイルストーン(授業改善の進捗の目安)を整理した。(図3)

教師は、求められる授業デザインのコンセプトを知り、先進事例を取り入れ、試行錯誤する中で理解を深め、授業スタイルを確立する。

子供は、課題や学習方法を部分的に自己決定することから始め、最終的に自分の学びを自己決定・自己調整できるようにする。

教師が指導観を転換するとともに、子供たちが学習者として自立していくよう、段階的に目標を設定しながら授業改善を推進する。

(裏面へ)

4 作成した各種資料について

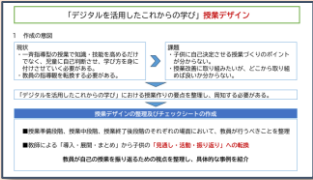
教師の指導観を転換し、授業を変えていこうとする学校や教師が第一歩を踏み出せるよう、研究校における実践を踏まえ、「授業デザイン」「学習環境づくりの工夫」「学びの振り返り」「授業改善促進に向けた校内研究・研修会アイデア」の4つの資料を作成した。（ページ右下二次元コードのサイトににて閲覧可）

■ 授業デザイン

児童・生徒が学習課題や学習方法を自己決定する授業づくりを進めるためには、柱となる授業デザインの理解が必要となる。

本指導資料では、各校種、各教科等における実践から見てきた授業づくりのポイントを「見通し」「活動」「振り返り」の活動ごとに整理した。これまでに実施したことのない教師にも参考となるような具体的な事例も紹介している。

これらのポイントは、教師が授業を振り返るための視点でもある。児童・生徒が自己決定する内容を教師が想定し、授業を改善することが重要である。

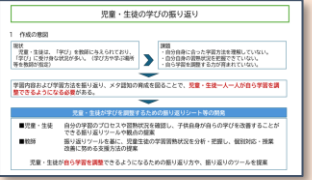


■ 学びの振り返り

理解した学習内容を確認するとともに、どのように学んだかを自分なりに価値付けながら学びを調整していく活動は、子供の自立を促す上で重要である。

本指導資料では、児童・生徒が学びを自己調整するための視点や「振り返り」の留意点を整理し、具体例を示した。振り返りの内容の閲覧・共有が可能となるよう、各種アプリの共同編集機能等を活用した事例も紹介している。

自己の学びを客観的に見つめることは、成長を実感することにつながる。教師は、個々の振り返りを見取り、支援に生かすことが重要である。

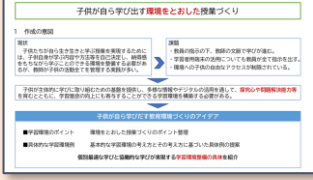


■ 学習環境づくりの工夫

児童・生徒が必要感や納得感をもちながら主体的に学ぶためには、学習環境の整備が必要となる。

本指導資料では、環境をとおした教育を意識し、授業をデザインするためのポイントを整理した。児童・生徒が学習方法（どこで、誰と、どのように学ぶか）等を自己決定できる環境設定の視点を紹介している。

学習環境づくりは、これから求められる授業の要である。児童・生徒の活動を見通し、最適な環境を構成することが重要である。

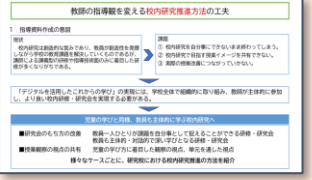


■ 授業改善促進に向けた校内研究・研修会アイデア

指導観を転換し、自立した学習者として子供を育成するためには、校内研究会の在り方も重要である。

本指導資料では、校内において教師一人一人が各自の実践を発表する場を設定するなど、研究推進の様々な手法を整理した。教師が研究主題を自分事として捉え、主体的に参加するようになる事例を紹介している。

授業改善に向かう教師の学びも子供たちの学びと相似形である。教師一人一人の意識を高め、協働しながら授業改善に取り組むことが重要である。



委員名簿					
台東区立上野小学校	校長	田中 康雄	台東区立上野小学校	主幹教諭	倉澤 貴文
板橋区立志村第二小学校	主任教諭	須田 幸知	三鷹中央学園三鷹市立第三小学校	主任教諭	中野 紀子
西東京市立上向台小学校	教諭	古矢 彩音	渋谷区立上原中学校	主任教諭	小西 進
府中市立府中第一中学校	主任教諭	重光 悠	都立三鷹中等教育学校	教諭	仁田 勇介
都立多摩高等学校	主任教諭	植嶋 悠太	都立立川国際中等教育学校附属小学校	主任教諭	若林 佳菜
担当：教育庁総務部デジタル推進課 統括指導主事 池田 守					

各種資料の詳細は以下リンクのサイトより閲覧、ダウンロードすることができます。

義務教育指導課ポータルサイト

どうぶつ園の情報教育ポータル